

2026年度 奨学金募集要項

(直接応募)

公益財団法人 大塚敏美育英奨学財団

OTSUKA TOSHIMI SCHOLARSHIP FOUNDATION

2026年度募集要項(直接応募)

奨学金制度の概要

1) 奨学金給付額

年額200万円、150万円または100万円

ただし、他奨学金と併給の場合は年額50万円(奨学期間中の他奨学金の合計額が170万円以上になる場合は併給不可)

※当財団選考委員会による評価に応じて決定。

※特に研究成果及び品行の優れた継続申請者(若干名)に年額250万円の給付を行うことがあります。

※学業が不良のとき、また法律を犯す行為だけでなく、倫理・道徳観念上、学生として不適切な行為があった場合は、給付額減額または給付停止となることがあります。

2) 奨学期間

1年間(2026年4月～2027年3月)

※奨学期間中、所属大学に在学していることが条件です。なお、奨学期間は1年間ですが、継続申請を認めます(奨学期間は最長、最終目標とする学位取得までの最短修業年限まで)。

※秋入学の2025年度奨学生で、2026年秋に修了予定(標準修業年限内の修了)の人に限り、半年間の継続申請を認めます(他奨学金との併給は不可。採用された場合は2026年秋に学位取得証明書など修了を証明する書類の提出が必要です)。

3) 申請者の区分

1. 新規申請者:当財団から奨学金の給付を受けたことのない者

2. 継続申請者:当財団から過去に奨学金を給付された者

※継続申請は2025年度に成果・進展のあった者に限り認めます。

※過去に応募した際の願書を書き写した者は不採用とします。

4) 給付停止の要件

1. 退学したとき

2. 奨学生が休学、又は長期にわたって欠席したとき

3. 奨学生が原級にとどまったとき、又は修了延期の恐れが生じたとき

4. けが、病気などのため成業の見込みがなくなったとき

5. 学業成績又は性行が不良となったとき

6. 奨学金を必要としない理由が生じたとき

7. 上記のほか、奨学生として適当でない事実があったとき

8. 在学校で処分を受け、学籍を失ったとき

9. その他奨学生としての資格を失ったとき

応募資格

※応募、書類選考、面接、内定、認定式の時点で日本国外にいる人は選考対象外です。

(1) 2026年4月1日時点で満38歳以下の私費留学生(在留資格が「留学」の者に限る)

(2) 日本国内の大学又は大学院の正規課程に在学し、人の健康に深く関連する分野(医学、歯学、薬学、生物学、栄養学、体育学、工学等。ただし工学は医学・薬学に関連の深い分野の研究をしている者に限る。)及び経営学(経営学の基盤ができていない発展途上国出身の留学生については「経済分野に焦点をあてた国際関係学」も対象に含む)の研究をしている者

※工学で医学・薬学との関連(学会発表、論文などの実績を含む)が願書に明記されていない場合は選考対象外

※学部1、2年生は応募不可。3年生以上の学部生についても、成績が極めて優秀な場合(すべて優/Aなど)を除き、応募不可

(3) 向学心に富み、学業優秀であり、品行方正である者

(4) 独自性のある研究、革新的な研究に携わっている者

(5) 財団に提出する書類(応募書類を含む)に対して指導教員などのしかるべき指導、チェックを受けられる者

(6) 奨学期間中に合計40日以上(出発日を含む)日本を離れない者

(7) 国際的視野を持ち、日本と各国の架け橋としてリーダーシップを発揮できる者

(8) 学資の支弁が困難と認められる者

(9) 当財団のイベントや奨学生のネットワークに積極的に参加し協力できる者

(10) 日本語を学ぶ意欲のある者

※英語で書かれた願書も受け付けますが、願書及び面接において日本語への意欲が見られない場合は減点します。

(11) 研究成果をもって社会貢献を期する者

(12) 上記(1)～(11)の資格及びその他当財団の定める条件の者

※標準修業年限内での修了が見込めない者は応募不可

※授業が夜間・週末にある者、通信制の留学生は応募不可

応募方法

申請サポートシステムを導入しています。願書他の「Web提出」と「郵送」の両方の手続きが必須です。

1) 応募方法 ※詳細は4ページの「申請の流れ」をご覧ください。

1. 当財団ホームページの「奨学金に応募する」より申請サポートシステムへ入り、「申請の流れ」に従って基本情報を入力の上、PDFにした願書(推薦状は除く)、成績証明書、日本語訳(英語で願書を記入した場合のみ)をWeb提出してください。指定されていない書類(論文など)はアップロードしないこと。

※推薦状を除く願書の全ページ(写真のあるページはカラー)がアップロードされていない場合は選考対象外となります。

※Web提出する願書にも必ず写真を貼付すること。

※願書は必ずスキャンしてPDFにすること(アプリなどで写真をPDFに加工したものは不可。横向き不可)。

※入力した基本情報と願書の内容に差異がある場合は選考対象外となります(特に氏名と研究タイトルに注意)。

Web提出のやり直しはできません。よく確認の上、提出ボタンを押してください。

2. Web提出後に通知される受付番号を指定の5カ所(「申請の流れ STEP04」参照)に記入の上、応募書類をまとめて事務局宛に郵送してください。また、5カ所に加えて推薦状の入った封筒、願書を郵送する封筒等、すべての封筒にも受付番号を書いてください。

【送付先】 〒540-0021 大阪市中央区大手通3-2-27 大塚グループ大阪本社ビル
公益財団法人大塚敏美育英奨学財団 事務局

※Web提出した願書・成績証明書と、郵送した願書・成績証明書に差異がある場合は選考対象外となります。

※提出された書類は、当財団の事業を遂行する目的以外には一切使用しません。※応募書類は返却しません。

2) 応募書類

1. 該当の奨学生願書の原本(A4サイズで片面印刷した当財団指定用紙を使用し、ホチキス留めをしないこと。ページが欠けているものは選考対象外)

※推薦状以外の書類はすべて応募者本人が日本語または英語で手書きすること(黒インクのペンを使うこと。消せるペン・青インクのペンは使用不可。コピーした願書、タブレット端末等で記入し印刷した願書は不可。記入にあたりChatGPT他の生成AIツールを一切使用しないこと)。

なお、英語で書かれた願書も受け付けますが、日本語訳の添付が必須です(日本語訳の不備、字数制限のある項目に対して日本語訳に字数が明記されていないものは選考対象外)。英語で願書を提出する場合は日本語訳についてのQ&Aを必ず参照してください。

※新規申請と継続申請、医薬系と経営系で願書が異なりますので注意してください。誤った願書で応募した場合は選考対象外となります。

※継続申請者は過去に応募した際の願書を書き写さないこと。前回の記述を一部でも書き写した者は選考対象外。抱負や研究内容に変更がなかったとしても、必ず新たな表現で書き起こすこと。

※指導教員の適切なチェックを経っていないと思われる応募書類(願書内容及び日本語訳を含む)を提出した者は選考対象外とします。

2. 推薦状(推薦者が自筆で署名の上、密封して提出すること。推薦状が英語の場合、日本語訳の添付が必須です)

※専攻分野の指導、研究に責任を負う方の推薦状が必要です。日本語教員による推薦状は不可。

※新規申請、継続申請にかかわらず、同じ指導教員から2人以上推薦される場合は、推薦状に「推薦順位とその理由書」を添付して密封してください(1人のみ推薦される場合は不要)。

※工学分野は工学系の推薦状を使用してください。

3. 写真1枚(4.5×3.5cm、カラー、胸から上、正面で、応募前6ヵ月以内のものを願書に貼付のこと。アプリなどで加工・修正した写真は不可)

4. 成績証明書(履修科目、単位数、点数、評価及びその説明のあるもの。合格、不合格の評価のみのものは不可。段階評価又は点数評価された直近1年分の成績証明書を送付のこと。成績通知書は不可。成績が出ない旨の証明書は不可。日本語学校や専門学校のもの不可)

※成績証明書は1年分必要なため、直近のものが半年分の場合はその前年のものも添付すること。

5. 在学証明書(日本語で書かれた2026年4月1日以降のもの。コピー不可)

6. 住民票の写し(募集開始日以降のもの。コピー不可。「国籍・地域」「在留資格等」が省略されたもの不可。マイナンバーが記載されたもの不可)

7. 【該当者のみ】2026年4月～2027年3月にかかる期間で他の奨学金、研究助成金を受給する場合、その内容を証する書類(支給団体名、期間、金額等を証する写し)

3) 応募期間

※新規申請者と継続申請者で応募締切日が異なりますので、注意してください。

1. 新規申請者(当財団から奨学金の給付を受けたことのない者)
Web提出: 2026年3月5日(木)9時~4月20日(月)17時
郵送: 2026年4月1日(水)~4月23日(木)15時(事務局必着)
2. 継続申請者(当財団から過去に奨学金を給付された者)
Web提出: 2026年3月5日(木)9時~4月13日(月)17時
郵送: 2026年4月1日(水)~4月16日(木)15時(事務局必着)

選考、採用及び奨学金の給付について

1) 選考

選考は書類選考と面接試験(書類選考合格者のみ)によって行い、採用は選考委員会を経て理事会で決定します。書類選考不合格者への通知はしません。なお、面接試験は大阪または東京で6月下旬~7月初旬に行います(予定)。

2) 採用

7月中旬までに採否を決定し、本人に通知します。その通知をもって内定とし、7月24日(金)、25日(土)に開催する当財団認定式への出席及び当財団指定の「確認書」の提出をもって正式採用とします(半年間の継続申請採用者も同様です)。確認書提出後の辞退、併給への変更はできません(他の奨学金・研究助成金等を申請する場合は、必ず申請前に事務局に連絡すること)。

3) 奨学金の給付

原則として年間給付額を2回に分けて、8月と12月の一定日に本人名義の口座に直接振り込みます。また、研究や日本語学習、国際理解に役立つ本を買う費用として図書費を給付します(金額は1万円程度を予定しています)。図書費で購入した本の読書レポートを提出していただきますので、予めご了承ください(11月頃予定)。※半年間の継続申請採用者の奨学金の給付時期については別途定めて該当者に連絡します。図書費の給付は行わない予定です。

4) 採用予定人数

2026年度: 約90人(2025年度の実績77人、2024年度の実績75人)

奨学金の特徴

- (1) 奨学金は給付とし、返済の義務はありません。ただし、虚偽の申告をした場合、奨学生の義務を果たさなかった場合はこの限りではありません。
- (2) 奨学生の卒業後の就職、その他一切については本人の自由とします。

奨学生の義務

奨学生は以下に定める義務を履行する必要があります。

- (1) 奨学生は、募集要項に規定された内容を遵守し、資格条件に抵触することがあれば速やかに届け出ること
- (2) 次のいずれかに該当する場合は、直ちにその旨を代表理事に届け出ること
 1. 休学、復学、転学又は退学したとき
 2. 停学その他の処分を受けたとき
 3. 氏名、住所その他重要な事項に変更があったとき
 4. 留年又は修了延期の恐れが生じたとき
- (3) 以下の書類を代表理事に提出すること
 1. 在学証明書及び生活状況報告書
 2. 成績証明書
- (4) 当財団主催の行事に参加すること
- (5) 奨学期間終了後も定期的に当財団に近況を報告し、卒業生のネットワークに参加すること

申請の流れ

STEP
01

マイページ
取得

- ① 当財団ホームページの「奨学金に応募する」より申請サポートシステムへ入り、「マイページを取得する」ボタンをクリックします。
- ② メールアドレスを登録します(yahooのメールアドレスは使えません)。
- ③ 登録したメールアドレスに、マイページ登録用のURLが届きます。そのURLにアクセスし、パスワード等を登録します。
- ④ ログインIDが自動発行されます。

マイページの取得完了

STEP
02

申請書類の
準備

- ① 「マイページ」にログインします。
- ② 「申請者基本情報」を入力します。
※ 願書に書いたことと同じことを入力すること。入力した基本情報と願書の内容に差異がある場合は選考対象外となります。
- ③ 「奨学生願書(手書きしたもの)」と「成績証明書」をアップロードします。
(願書が英語の場合は、日本語訳もアップロードします。願書と日本語訳は別々のPDFファイルにし、それぞれ「奨学生願書」「日本語訳」欄にアップロードしてください。)
※ 願書は必ずスキャンしてPDFにすること(アプリなどで撮影してPDF化したものは不可。横向き不可)
※ 「願書」欄には、論文など願書以外のものをアップロードしないこと
※ 「成績証明書」欄には、成績証明書以外のものをアップロードしないこと
※ 英語で願書を書いた場合のみ日本語訳をアップロードすること(1~3ページについても英語で記入した部分は日本語訳が必須です)。「日本語訳」欄に日本語訳以外のものをアップロードしないこと
※ 保存、アップロードした各書類は「PDF表示」ボタンから確認できます。「提出」ボタンを押すまでは、申請受付期間であれば何度でも編集、アップロードが可能です。
※ 写真を貼付していない願書は選考対象外です。

STEP
03

Web提出

申請者基本情報の内容が確定し、申請書類がすべて揃ったら、以下の注意点をもう一度よく確認してからマイページの「提出」ボタンをクリックします。

- ※ 4ページの推薦状を除く願書の全ページ(医薬系は1~11ページ、経営系は1~10ページ、写真のあるページはカラー)と必要書類がすべてアップロードされていることを確認してください。
- ※ 推薦状、住民票、在学証明書はWeb提出しないでください(開封された推薦状は無効です)。
- ※ ページ順に並んでいない願書、ページの向きが正しく揃っていない願書は選考対象外です。
- ※ Web提出のやり直しはできません。「PDF表示」でアップロードしたPDFファイルを確認してから、提出ボタンを押してください。

Web提出完了・受付番号発行

STEP
04

郵送準備

Web提出後に通知される受付番号を以下の5カ所に記入してください。例)26-1

1. チェックリストの右上の受付番号記入欄
 2. 奨学生願書1ページの左上の受付番号記入欄
 3. 成績証明書の右上(成績証明書には受付番号に続けてカタカナで名前も記入すること)
 4. 在学証明書の右上
 5. 住民票の右上
- ※ 受付番号を記入していない願書は選考対象外です。

STEP
05

郵送

チェックリストに従いすべての申請書類が揃っていることを確認の上、応募期間内に財団宛に郵送してください。

- ※ Web提出した願書・成績証明書と、郵送した願書・成績証明書に差異がある場合は選考対象外となります。
- ※ 推薦状は密封のまま郵送してください。開封された推薦状は無効です。
- ※ 推薦状の入った封筒、願書を郵送する封筒等、すべての封筒にも受付番号を書いてください。

応募資格に関するQ & A

Q. 国籍の制限はありますか？

A. 国籍の制限はありません(ただし、日本国籍を有する者を除く)。

Q. 在留資格が「留学」以外でも応募できますか？

A. 在留資格が「留学」の人のみ応募できます。

Q. 在籍する学部・学科、研究内容等が応募対象になるかわからないのですが？

A. 在籍する学部・学科にかかわらず、研究内容が人の健康に深く関連する分野(医学、歯学、薬学、生物学、栄養学、体育学、工学等)及び経営学であれば応募できます。

まず指導教員の先生と相談してください。それでも判断できない場合のみ、当財団ホームページのお問い合わせフォームより、具体的な研究内容を記入して事務局にお問い合わせください。

Q. 経営学専攻でなければ応募できませんか？

A. 研究科にかかわらず、経営学に関連していれば経済学など幅広い分野が対象となります。また、経営学の基盤ができていない発展途上国出身の留学生については国際経済、国際金融、国際貿易など、経済分野に焦点をあてた国際関係学も対象に含まれます。

Q. 工学系の専攻なのですが、応募できますか？

A. 応募できますが、「医学・薬学に関連の深い工学分野」を研究している人に限ります。例えば、検査・分析機器の開発、生体材料工学、光学機器開発、放射線(治療・診断)、ロボット工学などの人間医工学及び医薬生物・ゲノム統計解析などの生命情報学、計算科学、創薬に関わる研究などが対象です。願書に「医学・薬学にどう関連するか、どう応用できるか」を必ず明記してください。関連が不明確な場合は選考対象外となります。工学用の推薦状を使っていない場合も選考対象外となりますので注意してください。応募される際は必ず工学用の推薦状を使い、「医学または薬学に関連している」項目を確認の上、推薦者がチェックを入れてください。

Q. 生物学専攻で、植物や動物に関する研究をしているのですが、応募できますか？

A. 人の健康に応用できる研究であれば応募できます。ただし、必ず願書に「どのように応用可能か」を記入してください。

Q. 研究生は応募できますか？

A. 研究生は応募できません。非正規留学生は対象外です。

Q. 入学前に応募できますか？

A. 応募できません。願書とともに在学証明書の提出が必須のため、4月時点で正規課程に在学中の人が対象です。

Q. 学部生は応募できますか？

A. 学部1、2年生は応募できません。3年生以上の学部生についても、成績が極めて優秀な場合(すべて優/Aなど)を除き、応募不可です。

Q. 新規申請者です。2026年秋に卒業するのですが、半年分の奨学金に応募できますか？

A. 応募できません。新規の申請者に対して半年分の奨学金給付は行いません。奨学期間(2026年4月から2027年3月まで)を通して在学している人のみが対象です。ただし、卒業後進学予定で、合格証明書又は入学を証明する書類を応募書類と共に提出できる場合は応募できます。進学後の指導教員が応募者と面談を重ねているなど、十分な認識をもって推薦状を書ける場合のみ対象となります。

Q. 2025年度の奨学生です。2026年秋に修了するのですが、半年分の奨学金に応募できますか？

A. 秋入学の2025年度奨学生で、2026年秋に修了予定(標準修業年限内の修了に限る)の人は、修了までの半年間の継続申請をすることができます。必ず願書1ページの「半年間の継続希望」に○をつけてください。他の奨学金と併給はできません。

Q. 標準修業年限内に修了できないかもしれないのですが、応募できますか？

A. 長期履修生や標準修業年限を超えている人(オーバードクターを含む)、標準修業年限内での修了が見込めない人は応募できません。採用されてから修了延期となった場合は採用が取り消されます。

Q. 年齢制限はありますか？

A. 2026年4月1日時点で満38歳以下の人が対象です。

Q. 他の奨学金を受給している場合でも応募できますか？

A. 受給している他の奨学金が併給可能で、かつ奨学期間中の他奨学金の合計額が170万円未満の場合は、応募できます。支給団体名、期間、金額等を証するコピーを提出してください。ただし、給与として受給しているものがある場合は応募できません。

Q. 交換留学をする予定ですが、応募できますか？

A. 交換留学、現地調査、旅行、日本国外からオンライン授業を受ける等で奨学期間中に出発日を含め合計40日以上日本を離れる(生活のベースが日本にない状態)予定がある人は応募できません。

提出書類に関するQ & A

Q. 募集要項等の書類はどこで入手できますか？

A. 募集要項等は、ホームページで見ることができます。また、願書(当財団指定用紙)はホームページからダウンロードして使用してください。新規申請と継続申請、医薬系と経営系で願書が異なりますので注意してください。誤った願書で応募した場合は選考対象外となります。

Q. 願書③「所属機関」は、いつ時点の情報を記入すればいいですか？

A. 所属機関・学年他、学業・生活面の各項目については、2026年4月時点の状況を正確に記入してください。

Q. 願書④「学歴・職歴」はどのように記入すればいいですか？

A. 母国の最終学歴から現在までの経歴(日本語学校や研究生等含む)を上から順に時系列で空白期間がないように記入してください。職歴がある場合は具体的に記入してください。

記入例)

2015	9	～	2019	7	〇〇大学 △△学部 ××学科 (中国〇〇省△△市)
2019	9	～	2022	8	株式会社〇〇〇 研究開発職 (中国〇〇省△△市)
2022	9	～	2023	8	☆☆☆日本語学校(大阪)
2023	10	～	2024	3	〇〇大学大学院 △△研究科 研究生
2024	4	～	2026	3	〇〇大学大学院 △△研究科 博士前期課程
2026	4	～			〇〇大学大学院 △△研究科 博士後期課程

Q. 入学したばかりで、在籍する大学院の成績証明書がありません。その場合、大学の時の成績証明書で応募できますか？

A. 卒業した大学の成績証明書で応募できます。

Q. 成績証明書は原本でなく、コピーでもいいですか？

A. コピーで応募できます。

Q. 母国語で書かれた成績証明書で応募できますか？

A. 日本語または英語表記の成績証明書の取得が困難な場合は、母国語で書かれた成績証明書で応募できます。なお、募集要項に記載の通り、履修科目、単位数、点数、評価及びその説明のある直近の年のものを提出してください(合格、不合格の評価のみのものは不可)。成績証明書は1年分必要なため、直近のものが半年分の場合はその前年のものも必ず添付してください。

Q. 郵送の締切は消印日ですか？ 到着日ですか？

A. 新規・継続共に郵送締切日の15時事務局必着です。郵送以外は受け付けません。
なお、当財団ホームページの申請サポートシステムからのWeb提出は、Web提出締切日の17時までですので、注意してください。必ずWeb提出後に応募書類を郵送してください。

Q. 願書は手書きでなくても応募できますか？

A. 応募者本人が手書きで記入してください。タイプした願書や代筆が含まれたもの、消せるペンで記入したもの、タブレット端末等で記入し印刷したものは選考対象外です。記入にあたりChatGPT他の生成AIツールを一切使用しないこと。

Q. 推薦状も手書きでないといけませんか？

A. タイプしたもので可能です。当財団ホームページからエクセル版をダウンロードできますので、そちらを使用してください。ただし、氏名欄(ご署名)は推薦者が必ず自筆で記入してください。代筆や記名の場合は選考対象外となります。
工学系のみ推薦状が違います。工学分野で応募される際は必ず工学用の推薦状を使い、「医学または薬学に関連している」項目を確認の上、推薦者がチェックを入れてください。

Q. 英語で書いた願書は受け付けていますか？

A. 受け付けますが、英語で記入した部分は固有名詞も含めすべて日本語訳の添付が必須です。その場合も、願書への英語での記入は必ず応募者本人が手書きで行ってください。なお、日本語で記入できる部分は日本語で記入してください。
日本語訳は手書きである必要はなく、様式は問いませんが、願書のページごとにページを分けて書いてください。研究内容(願書の7ページと8ページ)のみ、ページを分けずに続けて記載してもかまいません。両面は不可です。不自然で意味の通らない訳、誤訳、大幅な訳漏れ、原文にない内容が訳に入っている等の日本語訳の不備は選考対象外となりますので、注意してください。
「将来の抱負(将来の抱負とこの1年の進捗)」「研究内容(研究について、この1年の進捗と今年度の計画)」「過去1年の成果及び活動」について

は必ず字数制限を守り、日本語訳の字数を明記してください。

Q. 英語で記入する際、願書のマス目がある「将来の抱負(将来の抱負とこの1年の進捗)」「研究内容(研究について、この1年の進捗と今年度の計画)」「過去1年の成果及び活動」はどのように記入したらいいですか？

A. マス目を無視して記入してください。英語の字数については問いませんが、日本語訳については必ず字数制限を守り、字数を明記してください。

Q. 研究内容が特にない場合は、研究内容には何を書いたらいいですか？

A. 「今後研究したいテーマ」とその手法を具体的に800字以内で記入してください。

Q. 現在、病院実習中で研究していない場合、研究内容には何を書いたらいいですか？

A. 「実習で何を学んでいるか、今後医学的に何を成し遂げたいか」を800字以内で記入してください。

Q. 「過去1年の成果及び活動」が特にない場合はどうしたらいいですか？

A. 学会発表・論文投稿だけでなく、学業面の成果や社会貢献活動等を含めて、1年間の成果及び進展について記入してください。昨年度の成果及び進展が乏しい場合は応募できません。

Q. 医薬系の願書10ページ目「学会発表、論文掲載の研究実績」の論文の実績はどのように書けばいいですか？

A. 「著者名」「論文標題」「雑誌名」「巻」「最初と最後の頁」「発行年(西暦)」「査読の有無」「IF」「掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)」を記入してください。著者名が多数の場合、上位3名のみ記入しその他の著者を省略することは問題ありません。なお、省略する場合は、著者の総数と申請者の順番を○番目と記入してください。

Q. 「他奨学金・研究助成金の併願状況」の受給状況について、1回のみ支給される場合などはどのように記入すればいいですか？

A. Web入力時は「年額」を選択して給付の総額を入力してください。願書には、空いているスペースに「1回のみ」など、内容がわかるように記入してください。その他の項目についても説明が必要な場合は、願書の空いているスペースに内容を記入し、目印として付せんをつけてください。

Q. 願書⑤「外国人留学生担当部署・担当者名」とは何ですか？

A. 在学の大学・大学院で奨学金を担当する学生課などの部署名と担当者の名前を記入してください。連絡先電話番号の欄には担当部署への直通電話番号、担当者メールアドレス欄には担当者のemailアドレスを記入してください(直通電話番号が分からない場合は、代表番号で結構です)。空欄の場合は選考対象外となります。研究室の連絡先は不可です。

Q. 特定の指導教員がいない場合、推薦状は誰に書いてもらえばいいですか？

A. 学部長もしくは研究科で責任のある方に記入してもらってください。ただし、専攻の授業や研究指導を請け負っている方のみです。今後の研究について、責任をもって指導いただける方の推薦状が必要です。

Q. 受付番号を書く5カ所とはどこですか？

A. 申請システムの「申請の流れ STEP04」を参照してください。また、5カ所に加えて推薦状の入った封筒、願書を郵送する封筒等、すべての封筒にも受付番号を書いてください。

奨学金額に関するQ & A

Q. 奨学金の金額はどのように決まりますか？

A. 当財団選考委員会による書類審査、面接試験の評価に応じて200万円、150万円、100万円のいずれかを決定します。他奨学金と併給の場合は一律50万円になります。

Q. 研究助成金の受給やアルバイト等での収入は合否に影響ありますか？

A. TAやRA、アルバイトなどの収入や研究助成金の受給は合否に影響はありません。ただし収入と支出の明細が記入されていない、収支が合わないなど願書からどのように学費や生活費を賄っているか読み取れない場合、又は合理的な説明がなされていない場合は選考対象外となりますので、現状を正確に記入してください。
また、奨学期間中に収入を伴う長期インターンシップをする予定の人は応募できません。

Q. 他奨学金と併給できますか？併給する場合、受給している金額にかかわらず減額されますか？

A. 奨学期間中の他奨学金の合計額が170万円未満であれば併給できます。併給する奨学金の金額にかかわらず一律50万円を給付します。
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」、文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」他、同様のプログラム/プロジェクトに基づく給付金との併給はできません。ただし、研究費のみ(生活費には使用できず、研究に直接必要な物品費、旅費等に限定されたもの、大学等への用途報告義務があるもの)の給付の場合は併給とみなしません。

Q. 奨学金と研究助成金はどう区別しますか？

A. 研究奨励費、研究専念支援金などの名称にかかわらず、用途(研究に直接必要な物品の購入費用など)が指定されていないもの、生活費にあてられるものはすべて奨学金とみなします。

Q. 入学金や学費の免除は併給になりますか？

A. 併給にはなりません。

Q. アルバイトやTA、RAなどの収入は併給になりますか？

A. 併給にはなりません。

Q. 貸付の奨学金は併給になりますか？

A. 併給にはなりません。国や財団等からの返済の必要がない奨学金のみ併給とみなします。

日本語能力に関するQ & A

Q. 日本語のレベルにかかわらず応募できますか？

A. 応募できます。ただし、在日期间に比しての日本語能力は、合否に影響を及ぼす可能性があります。また、面接で日本語を一言も話さないなど、日本語に対する消極的な態度は評価にマイナスとなります。

Q. 英語で面接を受けることはできますか？

A. 原則、面接は日本語ですが、在日期间が短い人は英語での面接も可能です。ただし、日本語で願書を提出した場合は日本語での面接になります。英語での面接は認めませんので、必ず応募者が使用可能な言語で願書を記入してください。英語で面接を受ける場合も、簡単な自己紹介など日本語で話す努力をした場合はその姿勢を評価します。

応募者数・採用者数に関するQ&A

Q. 例年何人ぐらいの応募がありますか？

A. 2025年度の応募者数は319人、2024年度は317人でした。

Q. 奨学生の採用人数は何人の予定ですか？

A. 2026年度は約90人採用予定です。2025年度は77人、2024年度は75人を採用しました。

その他のQ & A

Q. 受付番号がわからないのですが？

A. 受付番号はWeb提出完了時に発行されます。

Q. Web提出したら、応募手続きは完了ですか？

A. まだ応募手続きは完了していません。各申請書類の指定の5カ所(「申請の流れ STEP04」参照)に受付番号を記入し、応募書類をすべて揃えて、速やかに郵送してください。また、5カ所に加えて推薦状の入った封筒、願書を郵送する封筒等、すべての封筒にも受付番号を書いてください。

Q. 願書が事務局に届いたかどうか心配で確認したいのですが？

A. 応募者が多いため、到着の有無についてはお答えできません。事務局に届いているかどうか心配な場合は、郵送する際に書類の追跡ができるレターパックや簡易書留等で送ってください。

Q. 願書を事務局に直接持って行ってもいいですか？

A. 郵送のみ受け付けます。事務局に直接持参した場合やメールでの提出は選考対象外となります。

Q. 面接はいつ、どこでありますか？

A. 大阪または東京で6月下旬～7月初旬に行きます(予定)。こちらで指定した日時・会場にお越しください。会場に来られない場合は選考対象外となります。

Q. 面接の連絡はいつ来ますか？

A. 6月下旬に応募者本人にメールで直接連絡します。事務局から連絡がない人は不合格となります。また、合否についての問い合わせには一切お答えできません。

Q. 継続申請の場合も新規申請と同じように応募書類をすべて揃えて提出しないとダメですか？

A. 継続申請の場合も新規で応募した時と同様に、すべての応募書類を揃えて事務局宛に提出してください。半年間の継続申請を希望する人も同様です。

設立年月日

2007年3月6日 「財団法人 大塚敏美育英奨学財団」 設立
2012年4月1日 「公益財団法人 大塚敏美育英奨学財団」 移行登記

設立の趣旨

わが国においては、近年少子高齢化が著しく今後更にこの傾向が加速するものと思われ、若年の有能な人材の育成が強く望まれております。一方、わが国と経済、教育及び文化において深く結びついているアジア・アラブ・アフリカ地域等の開発途上国においては、若年層人口は増加傾向にあるものの、わが国等の先進国における大学等の高等教育機関で学び研究するものは限られ、また留学中の経済的基盤は不十分な状況にあると思われま。

このようなわが国と開発途上国の置かれている状況と今後の互惠の益々の発展が必要な現状に鑑み、アジア・アラブ・アフリカ地域等から、わが国の大学及び大学院に留学し、医学、薬学、栄養学、体育学及び経営学を専攻する留学生に対し、奨学助成することは有意義であるものと考え、2007年に財団法人大塚敏美育英奨学財団を設立致しました。

出捐者・大塚敏美プロフィール

当財団は大塚グループ創業者一族の大塚敏美から私財の提供を受けて設立されました。大塚敏美は1922年12月24日に徳島県鳴門市で生まれ、昼夜を問わず懸命に働く両親の下で、幸せな子供時代を過ごしました。

1950年に父・武三郎が設立した大塚製薬工場に入社してからは、会社の事務はもちろん、社員寮の世話に至るまで責任を持って働く一方、日常生活では日々質素節約し、節制に努めていました。晩年になり、何か世の中のお役に立てることがしたいと、長年に亘って蓄えた私財の提供を申し出ました。こうして2007年、大塚グループの発展を長年に亘りご支援いただいた海外諸国からの留学生に対して奨学金を給付し、将来を担う人材の育成に寄与するという目的で、「財団法人 大塚敏美育英奨学財団」が設立されました。

財団法人の理事に就任してからは、毎年の奨学生認定式で長年の人生経験を通じて、「学ぶことのすばらしさ」「困難を乗り越えることの大切さ」を奨学生に語りかけてきました。礼儀正しく謙虚な人柄で、誠実さを貫き、2011年5月3日、清らかな88歳の生涯を全ういたしました。

大塚敏美の思いは現在も当財団の事業の中に生き続けています。

目的

日本国内の大学及び大学院に在学する有能な外国人留学生に対しての奨学援護を行い、もってわが国と世界の国々との国際親善と国際理解を担う有能な人材を育成することにより、わが国と世界の国々との学術、文化、教育の相互発展及び友好の発展に寄与することを目的としています。

事業

1. 日本国内の大学及び大学院に在学する有能な外国人留学生に対する奨学金の給付
2. 奨学金の給付を受ける留学生に対する生活指導及び助言
3. その他この法人の目的を達成するために必要な事業